

江持洞門えもちどうもんと佐久間亀五郎さくまかめごろう

「ピーピー、ピーヒョロロ……」

秋晴れのきょうは、朝から神楽かぐらばやしのふえやたいこの音が、村中にひびきわたっています。十月十五日は、江持村えもちの秋祭りの日です。

きょうの祭りは、いつもの年とちがつて、江持の洞門が完成し、そのお祝いも行われるのです。そのため村人たちが家族づれで、ぞくぞく神社へ集まってきたのです。明治二十一年（一八八八年）のことでした。

新しくできた洞門の南入口に紅白こうはくの幕まくがはられ、村の世話人せわにんをはじめ、多くの人たちが集まっていました。一番前の席には、はおりはかまで、胸には大きなリボンをつけ、日やけした、たくましいからだの人がおりました。この人が洞門の工事をうけおって完成させた佐久間亀五郎です。